

Title	先輩からのメッセージ
Author(s)	加地, 健一; 荒戸, 寛樹; 松岡, 孝恭
Citation	岩本ゼミナール機関誌 (2006), 10: 161-162
Issue Date	2006-03-24
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/56941">http://hdl.handle.net/2433/56941</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

## V. 先輩からのメッセージ

3期生 加地 健一

第11期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

昨年は仕事の関係で久しぶりに京都大学のキャンパスを訪れる機会に恵まれました。残念ながら日曜日に採用関連活動で京大会館に來ただけで、構内は散歩程度しかできませんでした。それでも、随所に新しい建物が建っていたり、時計台の裏にはガラス張りのレストランがあったり等と、私の在籍していた頃とは別の大学のように変貌しており、驚きとともに、少し寂しさを感じました。それでも、京都というただでさえ感慨深い街の、以前自分が過ごした道を歩くことが、こんなにも情緒のあるものとは思いませんでした。私が卒業してから既に8年が経ちますが、年を追う毎に月日の流れが速くなっていく気がします。卒業される皆様も、京都を離れ世界中で活躍される方が多いと思います。それでも何年か経った後、自分の大学時代を過ごした京都に久しぶりに戻ると、どれだけ恵まれていたかを実感できると思います。今後は皆様、自分自身の先に広がる広い世界と無限の可能性を見据えながらも、是非、たまには息を抜いて、京都という街に戻って来てみてください。社会人になった後の、別の眼で観る京都も格別です。それ故、是非とも岩本ゼミのOB会、青竹会の際は、ご足労と思われませんが京都まで足を伸ばしてみてください。今後は社会人として岩本ゼミ出身者同士、よろしくお願い致します。

2004、2005年度ティーチングアシスタント

9期生 荒戸 寛樹

11期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。極めて優秀な皆様に、本来教育を補助すべき私は逆に教わるばかりでした。感謝と申し訳なさい一杯です。

学業についてもさることながら、皆さんの代はなんと言ってもとても仲が良かったところが素晴らしいところではないでしょうか。大学で学んだことももちろんですが、この岩本ゼミで得た友人はきっと皆さんの一生の宝になることだろうと思います。

私は皆さんがインゼミの準備に連日徹夜するのを見ながら、「たとえどんなに小さいものであっても、真実を追い求めるというのはなんと素晴らしいのだろう」と改めて思い知らされました。これから皆さんは様々な分野でつまらぬ誤解や偏見に出会うことがあるかもしれませんし、激しく移り行く世間の波に戸惑うこともあることかと思えます。そのような時には、岩本ゼミで培ったであろう「時流に流されることなく真実を見つめ、自分なりの道を切り開いていく姿勢」を思い出してほしいと思います。

社会でプロとして働かれる方、さらに学業を続けられる方々ですが、どの世界に行っ

でも一線で活躍されると確信しています。私はまだしばらく（で済むかは分かりませんが…）京都にいますので、また遊びに来てくださいね。岩本先生と共に、皆さんの活躍談とお土産の地酒を楽しみにお待ちしております！

10期生 松岡孝恭

11期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんに多く助けてもらった自分としては、お祝いの言葉よりも「ありがとう」と言うほうが自然に思えます。みなさんと過ごした時間は、自分にとってたいへん充実した時間でした。似たような関心を持つ人たちが集まり、同じ問題を解決するために協力し合うゼミのようなシチュエーションが卒業後も出てくるとは思いますが、それぞれの場所で役割を果たし充実した時間を過ごされるよう願っています。

※機関誌第9号、「v.先輩からのメッセージ」における訂正のお知らせ

『岩本ゼミナール機関誌』第9号（2004年度版）の拙稿「終わりよければすべてよし？—6年後の経過報告—」において以下の誤りがありましたので、この場をお借りして訂正いたします。副題中の「6年後」、本文121頁7行の「6年後」及び「6年前」、並びに同頁9行の「6年以前」について、いずれも数字は「6」ではなく「5」でした。また、122頁15行の「10大学」は「9大学」でした。以上、申し訳ありませんでした。（1998・1999年度岩本ゼミナールチューター 山本英司）